


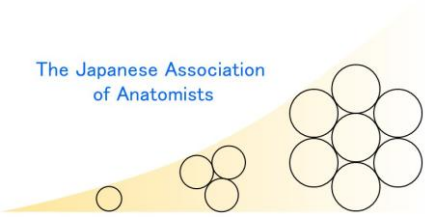
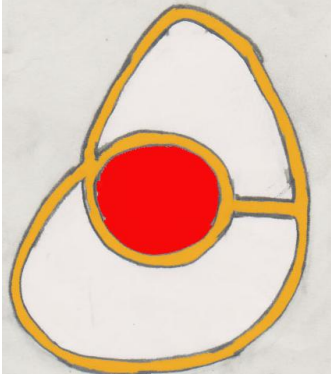




日本解剖学会ロゴマーク応募一覧

No	意図	ロゴマーク
A	<p>The Japanese Association of Anatomistsのロゴタイプは細身のイタリアン書体として、頭文字を強調して斜めに並ぶように配置した。アメリカ解剖学会のホームページを参考に、“The”は除いて全て大文字とし、ロゴ全体を拡大縮小した際にも文字がつぶれる事のないように配慮した。</p> <p>また、下部の余白には小田野直武により「解体新書」の扉絵に描かれたアダムとイヴをシルエットとして配置して、日本における解剖の幕開けをイメージした。「解体新書」の刊行後、日本の医学が発展したことはもちろんであるが、オランダ語の理解が進み、鎖国下の日本において西洋の文物を理解する下地が出来た事は重要であり、解剖学の新しい幕開けという意味のみならず、後の文明開化にも繋がる影響は多大である。</p> <p>色については、以前の解剖学雑誌のえんじ色をイメージして濃い赤色系でまとめてみた。解剖学会を象徴する色として相応しいと思われる。“JAPANESE ASSOCIATION OF ANATOMISTS”の色調を基本とすると“六角形の枠と日本解剖学会の文字”はやや濃く、白黒での使用も考慮して“2体のシルエット”はかなり薄くした。全体にクラシカルなイメージを保つように配慮したつもりである。</p>	
B	<p>日本解剖学会 The Japanese Association of Anatomists の頭文字を図案化し、日の丸とNipponの「N」を配した。全体として凝った図案でなくシンプルなものとしてある</p>	
C	<p>ダビンチの有名なスケッチにJAAの文字を組み込んだものです。クラシカルでオーソドックスな中にも親しみやすいデザインを心がけました。</p>	

No	意図	ロゴマーク
D	<p>【応募図案について】 視認性が良く、解剖学会のロゴだと誰がみてもひと目でわかり、かつロゴマークとして、印刷、Teb等の各所で利用する際に利用しやすいものを目指して作成しました。</p> <p>【図案各部の意図】 日本解剖学会とJapanese Association of Anatomistsの名称を円形に配置し、その内側に頭蓋前面像を配置しています。「日本解剖学会」の文字は朱朝体という書体(フォント)です。宋朝体の持つシャープな印象と同時に伝統と歴史を見る者に想起させます。一方「Japanese Association of Anatomists」の文字はCill Sansというサンセリフ書体です。イギリスの著名な彫刻家エリック・ギルによりデザインされたこの文字は、他方モダンな印象を与えます。この両者が円形に繋がって、連綿と続く解剖学研究の過去と未来、そして研究者間の繋がりを象徴しています。中央の頭蓋の絵は、解剖学研究の象徴として図案化しました。現在では細胞から、また分子、遺伝子からのアプローチなど解剖学研究は多岐に亘りますが、生命の理解、形態の美を追求するという共通の「骨格的」な目標があります。文字通りヒトの骨格をなす骨組織はその形態の妙と美を兼ね備えたものと言えましょう。一般の方にも解剖学会のロゴだとすぐに認識していただけるモチーフではないでしょうか。本応募のロゴは、シンプルな図案ですが、逆にどんな媒体にでも馴染みよく利用できるのではないかと考えました。モノクロームのロゴは色を変えることで、簡単にカラーバリエーションを作成することができます。</p>	
E	<p>解剖学において組織を切り分け解きほぐす「メスの刃」と、その構造を読み解く「眼」を、AssociationのAとAnatomistsのAで象っています。また、全体の丸いシルエットは顕微鏡を覗いた際の視野を表現しています。</p>	
F	<p>応募したロゴは「解体新書」の有名な扉絵を模したものである。「解体新書」はドイツ人医師ヨハン・アダム・クルムスの医学書Anatomische Tabellenのオランダ語版であるターヘル・アナトミアを日本語に翻訳した書であることはよく知られている。しかし、単にターヘル・アナトミアの翻訳書ではなく、他の多くの西洋医学書や和漢のものなども参考として書かれているそうである。著者は杉田玄白、前野良沢らで、安永3年、1774年に刊行された。今では当たり前のように使っている「神経」「軟骨」「動脈」などの用語もこの時初めて作成されてものである。本書は単に日本で初めて刊行されて解剖書であるばかりでなく、日本における現代医学の発生源点でもあろう。日本解剖学会は国内で最も歴史のある学会であり、解剖学はすべての医学の基礎である。その解剖学・医学の原点ともいえる「解体新書」という言葉は日本解剖学会のロゴとして最もふさわしいものと考えられる。カラーは日本伝統色の「藍色」である。</p>	

No	意図	ロゴマーク
G	<p>日本解剖学会の英語表記の頭文字であるJAAを使って表現しました。</p> <p>全体を包んでいるJの文字の横線は、長骨を図案化したものであり、縦線は肋骨または解剖時に使用するメスを図案化したものです。</p> <p>中にAAを入れることによって、全体として人の顔となり、Aの文字を丸文字にすることにより、smileの表情を描きました。会員の皆様方が笑顔で学会でご活躍されることを願っています。</p>	
H	<p>一目見て解剖学会のロゴマークだとわかること、解剖学者なら誰しも必ず使用するキーアイテムともいえるピンセットの図案を使用すること、解剖学の精緻なイメージが出るようシャープな図案にすること、以上3点を意図して作成しました。(ピンセット部分の画像はインターネット画像をもとに作成しています。)</p>	
I	<p>解剖学会のロゴはシンプルなもの、親しみやすいものを心がけました</p> <p>「解剖学会」と聞くと非常にカタいイメージを連想してしまいましたが、そうではなく、身近な存在に感じてもらえるよう、少し傾斜をつけて読みやすいように工夫しています。</p>	
J	<p>解剖学という医学の概念を日本が取り入れた江戸時代から変わらずにあるのが「解剖用具」であると思います。</p> <p>近年では研究が進みミクロの形態に着目した課題が多く見られますが、組織・細胞・分子の微小な世界のみを対象とした学会はほかにも多数あります。「解剖」することが解剖学の出発点であり、マクロの「解剖」なしには、この学問は始まりません。そういった中で、他の学会と一線を画すマークとして、危険なイメージもあるかと思いますが、敢えて「解剖用具」を組み込み、そのシルエットで「JAA」を示しました。左上から右に向かってより細密な作業な器具を示しています。</p> <p>アメリカにおける同学会のマークはシンプルでアルファベットのみにですが、このロゴマークでは上記の解剖学用具に加え、背景に日本の象徴である「富士山」のシルエットを加えました。そして、本学会から新しい知見が見出されるべく、また、明るい未来を示すよう、中心から発する光を表現しました。</p>	
K	<p>今回、日本解剖学会のロゴマークとして、日本解剖学会の英語表記である JAA を用いました。周囲の楕円形は、地球をイメージした深い青を用い、真ん中に用いたAは、富士山をイメージしたフォントと色を用いました。世界と日本と日本解剖学会の融合をイメージし作成致しました。</p>	

No	意図	ロゴマーク
L	<p>解剖学とは、顕微鏡で観察することでより細かな構造を理解することもあれば、複雑な構造を細分化して解明していくこともあります。「顕微鏡の光の中で照らしてみると、ひとつに見えていたものが拡大されて、多くの構成成分からなっていることが分かる」というイメージを左から右への流れの中に表しました。逆に「複雑な構造体をバラバラにして一成分を追及していく」というイメージを右から左の流れに表しました。</p> <p>また、多くのアナトミストが学会に参加し、あるいは多くの業績が集約していくことで、学会がますます発展していくことを願う気持ちも込めてみました</p>	 <p>The Japanese Association of Anatomists</p> <p>一般社団法人 日本解剖学会</p>
M	<p>日本の『日』とAnatomyの『a』と日本の国旗を重ね合わせたイメージを考えました。解剖学は基礎学の一分野であり、基礎学は学問が育つ母のような存在だと考えています。母なる大地や太陽のイメージで、国旗と同じように中の円は赤で、それ以外の空間は真っ白か、または海や空の澄んだ青です。縁取り（区画線）は金色を想定しています。白黒で使用する場合は中の丸い部分だけ、グレーにすれば良いのではと考えました。お恥ずかしいような、稚拙なデザインですが、参加いたします。</p>	
N	<p>シンプルなデザインにとどめながらも、歴史ある日本解剖学会にふさわしくなるよう努めた。山々からの日の出、麓を流れる川を連想させる配置とし、脈々と伝わる自然、歴史、英知を基盤として、解剖学が成り立っていることを表現し、益々の発展を祈念した。</p>	 <p>The Japanese Association of Anatomists since 1893</p>
O	<p>シンプル</p>	 <p>The Japanese Association of Anatomists</p>